



## サンフランシスコでスマホを選ぶ

執筆者

KDDI総研 特別研究員 高橋陽一

🕒 記事のポイント

日本と同様、米国でも携帯電話を選ぶのは一苦労だ。電話会社、どの店で買うか、機種、料金プラン、オプション、キャンペーンなど、時々刻々と変化する複数の選択肢の中から、目的と要求にあった最適なものを選ぼうとすれば、地道な調査活動と難しい意思決定が要求される。

特に毎年9月から10月にかけては年末商戦に向けての各キャリアとも足場固めの時期であり、新しい機種やサービスが続々と出てくることから、利用者の携帯選びはますます難しいものとなる。

### サマリー

本稿では、4G対応のスマホをできるだけ安く便利に使うという方針の下、この年末商戦の走りの時期に筆者が実際にサンフランシスコでいくつかの店に足を運び、契約に至るまでの体験をまとめた。

その過程で明らかになった大手4キャリアのサービス内容やキャンペーン等についてできる限り紹介することとしたい。

主な登場者 Verizon Wireless AT&T T-Mobile USA Sprint Best Buy Radio Shack Google Samsung

キーワード スマホ 4G LTE Google Wallet Nexus S NFC

地域 アメリカ合衆国（サンフランシスコ）

<b>Title</b>	Shopping Around for a Smartphone in San Francisco
<b>Author</b>	TAKAHASHI, Yoichi Research Fellow, KDDI Research Institute
<b>Abstract</b>	<p>As in Japan, making the decision on which mobile phone to purchase in the U.S is a complicated and time-consuming process. The sheer number of options available and the questions they pose, such as which carrier to choose, where and which phone to buy, which monthly plan to subscribe, which optional services to add, and weighing up active campaigns, all add to the difficulty of making a decision. In order to make the appropriate decisions to purchase the phone that is most suitable for our needs and purposes, it is necessary to conduct an extensive research and analysis process, and make tough decisions from amongst the vast quantity of wide-ranging and time-sensitive options.</p> <p>Fall is a particularly challenging time of year to make a purchase as the phone companies and dealers release new models and services in September/October in preparation for the Christmas/Year-end sales, and this only compounds the challenges facing a shopper in making a decision. With a mission to find the best 4G capable smartphone usable in a convenient and economical manner, this paper reports upon the author's hands-on experience in shopping around for a phone in San Francisco during the Fall season. In addition to describing the selecting and purchasing processes, and available handsets; the breadth of services and campaigns offered by the four major phone companies are, as much as possible, incorporated into this study.</p>
<b>Players</b>	Verizon Wireless AT&T T-Mobile USA Sprint Best Buy Radio Shack Google Samsung
<b>Keyword</b>	Smartphone 4G LTE Google Wallet Nexus S NFC

## 1 はじめに

9月23日、筆者のサンフランシスコでの新生活がスタートした。何はともあれ、早速携帯電話を買うことにした。今や携帯はスマホが主流だ。各社とも4G (LTE、WiMAX、HSPA+) 対応端末を取り揃えていることだろう。できれば最新の4G対応スマホをなるべく安く便利に使いたい、という方針で探すことにする。

日本と同様、米国でも携帯選びは一苦労だ。電話会社、どこで買うか、機種、料金プラン、オプション機器、アクセサリ、キャンペーン等、さまざまな選択肢が目の前に並び、それが時間とともに変化するため、地道な調査活動と難しい意思決定が求められる。

いきなりショップに行く前に、まずはネットで下調べをする。

## 2 Verizonのスマホ、WEB限定キャンペーン

LTEの品質とカバレッジでは何と言ってもVerizon Wireless (以下、Verizon) が気になる。Verizonのホームページ<sup>(脚注)</sup>に行く。いきなり「Androidスマートフォンが無料」というキャンペーンが目についた。9月23日から26日までの4日間、WEB限定のセールだ。対象機種はLG Ally、Samsung Continuum、LG Vortexの3種類。どれも3G携帯だ。4G対応ではないが「無料」という言葉に惹かれて一応チェックする。



LG Vortex  
(出典) Verizon  
ホームページ

ユーザ評価では、LG Vortexが5段階中3.5でこの中では最も高いが、世間一般のレベルではあまり高くない。もしかしたら不人気の機種の在庫一掃セールか。詳細画面に進んでみる。本体の定価が309.99ドル。2年契約の場合は129.99ドル。オンラインで購入すると全額割引されて無料になる。2年以内に解約すると解約料が350ドルかかる。解約料の方が本体定価より高いというのはどういうことだろう。

本体は無料でも月額料金がいくらになるのかが気になるので一応調べてみる。料金プランは音声とデータのパッケージをそれぞれ選ばなければならない。(図表1,2,3参照)



<sup>(脚注)</sup> <http://www.verizonwireless.com/b2c/index.html>

【図表1】Verizonの音声パッケージ

月間上限分数	月額基本料	上限超過後
450分	\$39.99	1分45セント
900分	\$59.99	1分40セント
無制限	\$69.99	-

(出典) Verizonのホームページの情報に基づき、筆者作成

【図表2】Verizonのデータパッケージ

月間上限データ量	月額基本料	上限超過後
完全従量制	\$0	1 MB当たり \$ 1.99
75 MB	\$10	75 MB当たり\$10
2 GB	\$30	1 GB当たり\$10
5 GB	\$50	
10 GB	\$80	

(表注) ただし、スマホは2 GB以上のデータパッケージを契約しなければならない。

(出典) Verizonのホームページの情報に基づき、筆者作成

この他にメッセージング(テキスト、写真、ビデオ)パッケージも選ぶ必要があるが、これは月額基本料のない完全従量制もある。

【図表3】Verizonのメッセージングパッケージ

月間上限メッセージ数	月額基本料	上限超過後
.	\$0	テキスト1通 \$0.20 写真・ビデオ1通 \$0.25
250通	\$5	メッセージ1通 \$0.10
500通	\$10	
	モバイル宛は無制限	
無制限	\$20	-

(出典) Verizonのホームページの情報に基づき、筆者作成

音声、データ、メッセージングをそれぞれ最低限の基本料で契約したとすると、月額69.99ドル。データの上限が2GBとなるが、これは十分なのかどうか、超過分がどれだけになるのか、少々不安ではある。無料のAndroidスマホということできなり飛びつきそうになったが、やはり4Gにこだわってもう少し探すことにする。

### 3 アメリカ最大の4G LTEネットワーク

Verizonの4G LTEネットワークのキャッチフレーズは、「America's largest 4G LTE Network」(アメリカ最大の4G LTEネットワーク)である。また「America's fastest and most reliable 4G network」(アメリカで最速かつ最も信頼性の高い4Gネットワーク)というのも出てくる。さらに、「Lightning Fast . Lightning Strong .」(稲妻のように速く、稲妻のように強い)として、稲妻をテーマにしたイメージ浸透を図っているようだ。

LTEの提供地域は9月15日現在で143都市<sup>(脚注)</sup>。2011年末には175都市、2012年末には人口の3分の2をカバー、2013年末には現在の3Gと同一のカバレッジになる。もちろんサンフランシスコは既に提供地域に入っている。

【図表4】 Verizonが提供する4G LTE対応スマホのラインナップ

機種名	メーカー	定価	2年契約時	オンライン特価
DROID BIONIC	Motorola	\$589.99	\$299.99	-
Breakout	Pantech	\$359.99	\$149.99	\$99.99
Revolution	LG	\$559.99	\$199.99	-
DROID CHARGE	Samsung	\$569.99	\$299.99	-
ThunderBolt	HTC	\$569.99	\$249.99	-

(出典) Verizonのホームページの情報に基づき、筆者作成



Pantech Breakout  
(出典) Verizon  
ホームページ

Verizonが現在提供しているLTE対応のスマートフォンは5機種(図表4)。各機種の詳細な特長や性能等に踏み込むと話が長くなるので、とりあえずユーザ評価に着目すると、DROID BIONICとBreakoutが5段階中4.5で最も高い。特にBreakoutは値段も比較的安いので最有力候補だ。

ちなみに他の機種の評価は、Revolutionが3.5、DROID CHARGEが4.0、ThunderBoltが4.0だ。ただし、ユーザ評価は評価者の数にもよるし、刻々と変わるので、あくまでも調査時点での目安でしかないが。

4G LTE用の料金プランは3Gのスマホ用と同じだ。



<sup>(脚注)</sup>

<http://www.droid-life.com/2011/09/14/verizon-flips-the-switch-on-another-26-new-4g-lte-markets-tomorrow-expands-in-3-others/>

その他にあれば便利なのが、モバイルWi-Fiホットスポットという機能だ。これは持ち運び可能な自分専用のWi-Fiホットスポットだ。スマホにその機能が付いているものもあるが、MiFiなどの専用の装置も販売されている。3Gまたは4G回線を使用することができ、1回線でWi-Fi対応機器を5～10台接続できる。これがあれば、タブレットやノートPCなどを持ち歩く際に、いつでもどこでもWi-Fiが使える状態となるので便利だ。専用装置を使う場合の料金プランはUSBモデムと共通で、特別なプランが用意されている。(図表5、6)



MiFi 4510L  
(出典) Verizon  
ホームページ

【図表5】 Verizonが提供するモバイルWi-Fiホットスポット装置

機種名	メーカー	回線	定価	2年契約時	オンライン特価
SCH-LC11	Samsung	3G/4G	\$269.99	\$149.99	\$99.99
MiFi 4510L	Novatel	3G/4G	\$269.99	\$99.99	\$49.99
Fivespot	ZTE	3G	\$269.99	\$49.99	.

(出典) Verizonのホームページの情報に基づき、筆者作成

【図表6】 モバイルWi-Fiホットスポット/USBモデム用料金プラン

月間上限データ量	月額基本料	上限超過後
5 GB	\$50	1 GB当たり \$ 10
10 GB	\$80	

(出典) Verizonのホームページの情報に基づき、筆者作成

ちなみに、【図表4】にリストアップしたVerizonの4G LTE対応スマホはすべてWi-Fiホットスポット機能(Wi-Fiテザリング機能)が付いているので、専用の装置を使う必要はない。特にBreakoutはWi-Fi対応機器が10台まで接続可能なので、ますます最有力候補の座が堅いものとなった。

なお、スマホに付いているWi-Fiホットスポット機能を利用する場合は、データパッケージは図表2に示すものではなく図表7の中から選ばなければならない。

【図表7】 スマホ付属Wi-Fiホットスポット機能を利用する場合のデータパッケージ

月間上限データ量	月額基本料	上限超過後
4 GB	\$50	1 GB当たり\$10
7 GB	\$70	
12 GB	\$100	

(出典) Verizonのホームページの情報に基づき、筆者作成

結論として、Verizonの4G LTEを使う場合、スマホはPantechのBreakoutがお勧めで、本体価格はオンライン価格で99.99ドル。これにはWi-Fiホットスポット機能が付いているので、これを利用する場合の月額料金の合計は、39.99ドル(通話分数450分) + 50ドル(データ量上限4GB)で89.99ドル。同機能を利用しない場合はデータ上限が2GBで39.99ドル + 30ドルの月額69.99ドル。データの超過料金がどの位になるかがやや不安だ。月額基本料も高めなので、もっといい選択肢がないか探すことにする。

#### 4 AT&TもLTEを開始。ただしサンフランシスコは未提供

AT&Tは9月18日にアトランタ、シカゴなど5都市でLTEを開始した<sup>④(脚注1)</sup>が、サンフランシスコはまだ提供地域に入っていない。サンフランシスコでも以前から4Gサービスを提供していると宣伝しているが、それは3GをベースにしたHSPA+方式によるものだ。以下にいう「4G」も実はそれだ。

AT&Tの3Gネットワークのキャッチフレーズは、「The nation's fastest network」(全米一速いネットワーク)だが、4Gの導入とともに、「Getting faster with 4G」が追加されるようになった。Verizonと違って、カバレッジよりも速度を強調しているところが特徴的だが、3Gでは「fastest」だったのが4Gでは「faster」と比較級になっていることから、3Gでは全米最速だったが、4Gでは全米最速とは言い切れないという感触が読み取れないでもない。

AT&Tのホームページ<sup>④(脚注2)</sup>に行ってみる。秋のクリアランスセールをしている。LG Phoenixが安い。本体定価が379.99ドル、2年契約の場合の販売価格は29.99ドル、オンライン割引で1セントになる。ユーザ評価も5段階のうちの4.3だから悪くない。ただしこれは3G携帯。4G対応ではないのでパスすることにする。

AT&Tは大手4社の中では一番多くの4G対応スマホを出している。(図表8)

【図表8】AT&Tが提供している4G対応スマホのラインナップ

機種名	メーカー	定価	2年契約時	オンライン特価
Impulse 4G	Huawei	\$379.99	\$29.99	.
Xperia PLAY 4G	Sony Ericsson	\$399.99	\$49.99	.
Thrill 4G	LG	\$449.99	\$99.99	.



④(脚注1) <http://www.pcmag.com/article2/0,2817,2393182,00.asp#bid=uZrwvIS2Nam>

④(脚注2) [www.att.com](http://www.att.com)

Infuse 4G	Samsung	\$449.99	\$99.99	.
Inspire 4G	HTC	\$449.99	\$99.99	.
Atrix 4G	Motorola	\$449.99	\$99.99	.
Veer 4G	HP	\$449.99	\$99.99	\$0.01
BlackBerry Torch	RIM	\$449.99	\$49.99	.

(出典) AT&Tのホームページの情報に基づき、筆者作成



Impulse 4G  
(出典) AT&T  
ホームページ

このうち、Impulseはユーザ評価が5段階中4.8でかなり評判がいいようだ。Wi-Fiホットスポット機能も付いており、値段も比較的安いので、これが最有力候補になりそうだ。値段が最も安いVeerは小さすぎて使い勝手が悪そうだ。ちなみに他の機種ユーザ評価は、Trill、Infuse、BlackBerry Torchが4.6、Atrixが4.5、Inspireが4.4、Veerが4.1、Xperiaは3.9といったところだ。

スマホを選んだら、次は料金プランだ。AT&Tの音声パッケージはVerizonと全く同じように見える。ただし、AT&Tは、月間の上限分数を使い切れなかった場合、最大12か月間繰り越せるという点で、Verizonとは差別化を図っている。(図表9、10)

【図表9】AT&Tの音声パッケージ

月間分数上限	月額基本料	上限超過後
450分	\$39.99	1分45セント
900分	\$59.99	1分40セント
無制限	\$69.99	.

(出典) AT&Tのホームページの情報に基づき、筆者作成

【図表10】AT&Tのデータパッケージ

月間データ量上限	月額基本料	上限超過後
200 MB	\$15	200 MB当たり \$ 15
2 GB	\$25	1 GB当たり\$10
4 GB*	\$45	

\* スマホに付属のWi-Fiホットスポット機能を利用する場合は4GBのプランを選ばなければならない。(出典) AT&Tのホームページの情報に基づき、筆者作成



AT&TもVerizon同様、モバイルWi-Fiホットスポットの専用の装置と料金プランを提供している。(図表11、12)

【図表11】AT&Tが提供するモバイルWi-Fiホットスポット装置

機種名	メーカー	回線	定価	2年契約時	オンライン特価
Elevate 4G	Samsung	3G/4G	\$269.99	\$69.99	-
MiFi 2372	Novatel	3G	\$299.99	\$149.99	\$49.99

(出典) AT&Tのホームページの情報に基づき、筆者作成

【図表12】AT&TのモバイルWi-Fiホットスポット用料金プラン

月間上限データ量	月額基本料	上限超過後
5 GB	\$50	1 GB当たり \$ 10

(出典) AT&Tのホームページの情報に基づき、筆者作成

結論として、AT&Tの4Gサービスを使うなら、スマホはImpulse 4Gがお勧め。本体価格は29.99ドル。月額基本料は39.99ドル(通話分数450分) + 25ドル(上限データ量2GB)で64.99ドル。またスマホに付属のWi-Fiホットスポット機能を利用する場合、上限データ量は4GBとなり、月額基本料は39.99ドル + 45ドルの84.99ドルとなる。月額基本料はVerizonに比べて5ドル程度安くなる。

## 5 T-Mobileのショッブは奥が深い???

T-Mobile USA (以下、T-Mobile) の4Gネットワークのキャッチフレーズは「America's Largest 4G Network」(アメリカ最大の4Gネットワーク)だ。Verizonのキャッチフレーズに似ているが、違いは「LTE」が入っているかないかだけ。方式はAT&Tと同様、HSPA+だ。将来的にはLTEの導入を視野に入れてはいるが、今のところ具体的な導入計画はない。ただし、HSPA+でも最大42Mbpsの伝送を可能にしていると言っているので、そうだとすればLTEと遜色がないかもしれない。

T-Mobileのホームページ<sup>(脚注)</sup>に行く。月額49.99ドルで音声、データ、テキストが無制限というキャンペーン広告が目にとまった。4G網も使える全部無制限のファミリープランだ。ただし、これはショッブのみの販売で、オンラインでは契約できないようだ。今まで見てきた月額基本料はVerizonが約70ドル、AT&Tが約65ドルで、しかもデータは無制限ではなかったので、50ドルですべて使い放題というT-Mobile



<sup>(脚注)</sup> [www.t-mobile.com](http://www.t-mobile.com)

の料金プランはかなり魅力的だ。

これはもうネットで調べるよりショップへ行った方が早いと、早速ダウンタウンにあるT-Mobileのショップへ行ってみた。マーケットストリートという賑やかな通りにあるお店だ。店内に入ると客が10人位、意外と混んでいる。スタッフは4人位で、皆忙しそうに顧客対応している。「いらっしやいませ」などと挨拶をする係やこちらに注意を向けるスタッフはいない。番号札をとるシステムにもなっていない。スタッフと話をしている客以外は放置され、展示されている端末を見たりアクセサリーを見たりと自由にしており、特に順番を待っている様子もない。



(筆者撮影)



myTouch 4G  
(出典) T-Mobile  
ホームページ

ざっと店内を見渡す。ネットで見た「49.99ドルで使い放題」のポスターがある。店内で販売されているどの機種とも組み合わせ可能とある。安い機種と組み合わせれば、かなりのコストパフォーマンスが期待できそうだ。4G対応で一番安い端末を探す。無料のスマホはいくつかあるが、さすがに4G対応で無料のものはない。myTouch 4Gというスマホが2年契約で99.99ドルと一番安い。他は2年契約でも149.99ドル、199.99ドルなどだ。

T-Mobileの店内でもう一つのポスターが目にとまった。「monthly4G」というプランで、月額50ドル。音声、テキスト、WEBが使い放題。しかもNO CONTRACT(契約不要)。先ほどの49.99ドルで使い放題のプランとの大きな違いは、この契約期間の部分だ。いつでも解約料なしに他社に乗り換えができるように、長期契約の縛りがないに越したことはない。店内のどの端末とも組み合わせ可能とある。ただし、小さな注意書きには、「100 MBまでは4Gスピード」とある。それを超えるとどうなるのか気になる。後でスタッフに聞いてみたい。



(T-Mobile ホームページ)

ところで、しばらく店内の様子を観察して、ある発見をした。番号札も列もなく、スタッフは皆顧客対応中なので、スタッフと話したい客はどうすればいいのだろうか。それを一人の客が実演して見せてくれた。店の真ん中辺りでじっと立っているだけだ。それも、スタッフと話したような雰囲気を出さずとより効果的はずだ。そうするとすぐに奥からスタッフが出てきて、「May I help you?」と声をかけてくれる。ははあ、そうやるのかと、その客が立っていた辺りの場所に立ってみた。やはり奥から別のスタッフが出てきた。いったい奥に何人スタッフがいるのだろうか。運悪く奥のスタッフ全員が出払ってしまっていたら、顧客対応中のスタッフの手が空くまで待たされるのかもしれないが、スタッフにつきまとわれることなく

店内を見たいというようなときには好都合なシステムだ。顧客に気を配っていないように見せかけて、実は気を配っている（かもしれない）という、新しいスタイルのカスタマーサービスかもしれない。

対応してくれたのは人の良さそうな男性スタッフ。何か質問はあるかと聞くので、「monthly4G」に興味があると伝え、100MBまでは4Gとあるが、100MBを超えるとどうなるのかと聞くと、「2Gの速度」になるという。「2Gの速度」っていったいどの位なのかまったく検討がつかない。ネットワークによるとってはっきり答えてくれなかったが、かなり遅いに違いない。まして4Gでは100MB位すぐに到達してしまいそうだ。そうすると、ほとんどデータは使い物にならない可能性がある。スタッフも、これはスマホには向かないと正直に認める。

さらに、このプランは長期契約ではないので、端末本体は定価で買わなければならないという。最新のスマホなら500ドル位、無料でも売れ残るような旧式の端末でも100ドル位はする。どうせ2年以上は使う状況なので、2年契約をしてでももっといいスマホを安く使える方がいいと判断。

よって「monthly4G」は切り捨て、最初に見た月額49.99ドルのサービスを改めて検討する。これは2年契約の縛りがあり、ファミリープランなので最低2回線契約しないといけないというところがネックとなる。家族の分も一緒に契約できるような状況であれば大きな問題ではない。さらに、



(T-Mobile ホームページ)

これにはデータ量の制限はないのかと聞いて見ると、月間2GBまではフルスピードだという。それを超えるとやはり2Gの速度になってしまう。月間2GBというのは十分なのかどうか分からない。Verizonの料金プランでもスマホは2GB以上の契約をしないとないといけなかったもので、おそらく2GBというのが一つの目安であり、最低レベルの線なのかもしれない。

ちなみに、ファミリープランではなく個人の契約だと、特にキャンペーンなどはやっていないので、音声、テキスト、データが使い放題で、データが2GBまでフルスピードというプランの月額基本料は79.99ドルとなる。それならVerizonやAT&Tの方が安いからだ。

一見安いと思ったT-Mobileのサービスやキャンペーンも、内容をよく見てみると、それほど魅力的ではないように思えてきた。しかもデータは使い放題とうたっているとはいえ、上限を超えると速度が極端に遅くなるようだ。品質やカバレッジも期待できないし、LTEも当分は導入されそうもない、AT&Tとの合併がどうなるかわからない、といろいろ悪材料が急に浮かんで来て、現時点ではT-Mobileを積極的に選ぶ理由はないとの結論に至る。

## 6 Google Walletの第1号端末はSprintのNexus S 4G

9月19日、米国版おサイフケータイのGoogle Walletがスタートした。利用可能な端末はSprintのSamsung/Google Nexus S 4Gだけだ。Sprintのホームページ<sup>(脚注1)</sup>によると、本体定価が549.99ドルのところ、2年契約で99.99ドル、WEBスペシャルでさらに値引きされ29.99ドルで購入できる。月々の基本料金が最低となる料金プランは通話450分付きで月額69.99ドル。3G以上のサービスでは10ドルのプレミアムデータパッケージに加入する必要があるので、月額基本料は合計で79.99ドル。ちょっと高いがデータが完全定額制だということで、一考の余地がある。



Nexus S 4G  
(出典) Sprint  
ホームページ

Sprintの4Gネットワークのキャッチフレーズは、「America's Favorite 4G Network」(アメリカお気に入りの4Gネットワーク)だ。米国の4Gネットワーク(WiMAX、LTE)の中では、Sprintの加入者が最も多いことがその根拠らしい。

SprintはLTEを2013年頃に全国的に導入することとしているものの、当面はClearwireのWiMAXネットワークによる「4G」サービスを展開している。

どんなスマホを取り揃えているのか、Sprintのホームページ<sup>(脚注2)</sup>に行ってみる。

【図表13】Sprintの4G対応スマホのラインナップ

機種名	メーカー	定価	2年契約時	キャンペーン
EVO 4G	HTC	\$449.99	\$149.99	\$99.99
Conquer 4G	Samsung	\$399.99	\$149.99	\$99.99
Photon 4G	Motorola	\$549.99	\$199.99	-
Epic 4G	Samsung	\$499.99	\$149.99	\$99.99
Nexus S 4G	Google	\$549.99	\$99.99	\$29.99

(出典) Sprintのホームページの情報に基づき、筆者作成

このうち、5段階のユーザ評価ではEVO 4Gが4.8で一番高く、次いでPhotonが4.4、



(脚注1)

[shop.sprint.com/mysprint/shop/phone\\_details.jsp?prodId=dvc4690001prd&deviceSKUId=46900020&flow=AAL&planSKUId=null&tabId=dt\\_phones&ptn=](http://shop.sprint.com/mysprint/shop/phone_details.jsp?prodId=dvc4690001prd&deviceSKUId=46900020&flow=AAL&planSKUId=null&tabId=dt_phones&ptn=)

(脚注2) [shop.sprint.com/mysprint/shop/phone\\_wall.jsp?INTNAV=ATG:HE:Phones](http://shop.sprint.com/mysprint/shop/phone_wall.jsp?INTNAV=ATG:HE:Phones)

Epicが4.2、Nexus Sが3.4、Conquerが3.3と続くが、値段の安さではNexus Sが圧倒的に魅力的だ。さらにGoogle Walletを是非とも使ってみたいので、今のところ最有力候補だ。以後はNFC機能の有無も重要な選定基準にすることにしよう。

続いて料金プランを見る。

【図表14】 Sprintの音声プラン

月間分数上限	月額基本料	上限超過後
450分	\$69.99	1分45セント
900分	\$89.99	1分40セント
無制限	\$99.99	.

(出典) Sprintのホームページの情報に基づき、筆者作成

VerizonやAT&Tに比べてずいぶん高そうに見えるが、これには無制限のデータとメッセージングが含まれるということなので、一応納得できる値段だ。ただし3G以上のサービスを使うスマホの場合はこの他にプレミアムデータパッケージ(月額10ドル)が強制的に追加される。

SprintもモバイルWi-Fiホットスポットを提供しており、専用の料金プランも設定している。回線は3Gと4Gが使える、4Gのデータは無制限に使えるが、3Gは上限が設定されており、それを超えると超過料金がかかる。

【図表15】 Sprintが提供するモバイルWi-Fiホットスポット装置

機種名	メーカー	回線	定価	2年契約時	オンライン特価
MiFi	Novatel	3G/4G	\$279.99	\$129.99	\$79.99
Overdrive Pro	Sierra Wireless	3G/4G	\$249.99	\$99.99	\$49.99

(出典) Sprintのホームページの情報に基づき、筆者作成

【図表16】 SprintのモバイルWi-Fiホットスポット用料金プラン

3G*の月間上限データ量 (Off-Net)	月額基本料	上限超過後
10 GB (100 MB)	\$89.99	1 MB当たり \$ 0.05
5 GB (300 MB)	\$59.99	ただしOff-Netは
3 GB (300 MB)	\$44.99	1 MB当たり \$0.25

(表注) 4Gのデータ量は無制限

(出典) Sprintのホームページの情報に基づき、筆者作成

専用のホットスポット装置ではなく、スマホに付属しているWi-Fiホットスポット機能を利用する場合は、上記プランとは異なり、音声パッケージに月額10ドルのプレミアムデータパッケージを追加した上で、さらに月額29.99ドルを追加することで利用可能となる。

結論としては、Sprintの4Gサービスを利用するのなら、スマホはGoogle Walletが使えるNexus S 4Gがお勧め。本体価格は29.99ドル。月額基本料は69.99ドル（通話分数450分）+ 10ドル（データ無制限のプレミアムパッケージ）で79.99ドル。さらにスマホに付属しているWi-Fiホットスポットも便利なので是非使いたい。とすると79.99ドルに29.99ドルを加えて、合計の月額基本料は109.98ドルとなる。

## 7 店頭販売はオンラインよりお得???

SprintのNexus S 4Gに強い魅力を感じながら、家電量販店のBest Buyに行ってみた。Sprintのコーナーめがけて突進する。何と店頭キャンペーンでNexus Sの本体が無料になっている。これは買わない訳にはいかない。オンライン販売よりも店頭販売の方が有利な場合があることがわかった。

女性店員が寄ってきて、何か質問はあるかと聞くので、このNexus SはWi-Fiホットスポット機能が使えかと念のため確認する。使えるが別途料金がかかるという。知ってはいたが、一応いくらかと聞くと月額30ドルの追加だという。月額基本料が最低のプランは79ドル（通話分数450分+プレミアムデータパッケージ）だから、月額合計は109ドルになるという。ネットで調べたとおりだった（6章参照）。早く契約しようと心が逸る。

その後、その店員と以下のやりとりがあった。

- 「今はどの携帯電話会社を使っているのか」
- 「今はどこも使っていない。今までは日本の携帯を使っていた」
- 「日本から来たばかりか」
- 「そうだ」
- 「それならホットスポットの追加料金は45ドルだ」
- 「えーっ、何でー」
- 「30ドルというのはクレジットヒストリーのある顧客用の料金だ」

まるで信用のない怪しい客だと決めつけている。そもそも、そんなことはWEBにもパンフレットにもどこにも書いていない。Wi-Fiホットスポット機能が30ドルならすぐにでも契約しようと思っていたのに、45ドルと言われては、ちょっと決めかね



Best Buy 店頭の様子  
（筆者撮影）

る。もう少し検討することにした。

ところで、Best Buyで販売されているスマホは、概してキャリア直営のオンラインよりも販売価格が安いものが多いようだ。(図表17)

【図表17】Best Buyのスマホキャンペーン価格

機種名	メーカー	キャリア	定価	キャンペーン*
Nexus S 4G	Google	Sprint	\$699.99	\$0
Fascinate	Samsung	Verizon	\$599.99	\$0
Photon 4G	Motorola	Sprint	\$699.99	\$99.99
Epic 4G Touch	Samsung	Sprint	\$699.99	\$199.99
DROID Bionic 4G	Motorola	Verizon	\$699.99	\$299.99
EVO 4G	HTC	Sprint	\$599.99	\$99.99
Infuse 4G	Samsung	AT&T	\$599.99	\$99.99
iPhone 4	Apple	AT&T	\$599.99	\$199.99
Inspire 4G	HTC	AT&T	\$599.99	\$79.99
BlackBerry Torch 4G	RIM	AT&T	\$599.99	\$49.99
Atrix 4G	Motorola	AT&T	\$599.99	\$49.99

\* キャンペーン価格はすべて2年契約が必要。

(出典) Best Buyのパフレットの情報に基づき、筆者作成

ただしよく見ると、Best Buyで扱っている端末はキャリアのサイトで扱っている端末とは本体定価が違っている。Best Buyの方が150ドル位高い。販売店側のコストが上乘せされているのか。そうだとすれば、本体を定価で買わざるを得ないような場合、たとえばプリペイドやNO CONTRACTで買う場合などは、キャリアから直接買った方が安いということになる。



RadioShack 店頭  
(筆者撮影)

月額30ドルと思っていたSprintのWi-Fiホットスポット機能の追加料金が、日本から来たばかりという理由で45ドルと言われたのはどうも腑に落ちない。別のお店で聞いてみよう、Radio Shackに行ってみた。客はまばらで、店員3人が中央のレジ付近で談笑している。SprintのコーナーでNexus Sを探す。いくら探してもない。展示機種が少ないわけではない。他の機種はほとんど揃っているのに、Nexus Sだけ、ない。店員に聞いてみた。もう置いてないという。あれはもう廃れ、次の機種が出ていると、Samsung Epic 4G Touch

(Galaxy S II)を勧められた。発売されたばかりで何と2年契約でも200ドルもする。

しかもこれではGoogle Walletが使えない。他にGoogle Walletが使える端末はないのかと聞いてみると、今のところNexus Sだけだが、間もなく他の機種でも使えるようになるはずだという。もう少し待つのならもっと安くいい機種も登場するかもしれない。NFC機能を搭載したiPhone 5が出るかもしれない。どうするか悩む。



Epic 4G Touch  
(出典) Sprint  
ホームページ

ついでに、4Gサービスはどの電話会社がお勧めかと聞いてみると、やはりSprintがいいと言う。データ完全定額制はSprintだけだという。データをそれほど使わないのであればAT&Tがお勧めだという。Verizonは何と言っても高い。T-Mobileはそもそもこのお店では扱っていない。

また、SprintのWi-Fiホットスポット機能を利用するときの追加料金はいくらかと聞くと、55ドルだという。今までの30ドルとも45ドルとも違う、新たな、しかも高い値段が出てきた。これは何か前提が違うのか。ますます混乱してきたので、もう少し頭を冷やして検討することとする。

そういう訳で、4Gサービスを使うならSprintがいいとの漠然とした情報のみを頭の片隅に残してRadio Shackを後にした。

## 8 スマホの新機種、新発売ラッシュ

少し頭を冷やしている間に、10月2日、AT&TがSamsung Galaxy S IIの販売を開始した。テレビとホームページで宣伝をしている。1080pのHD対応8メガピクセルカメラが付いて、画面がSuper AMOLEDディスプレイですごく明るく、速く、4Gスマホの中では最も薄いと説明。本体価格は定価549.99ドルのところ、2年契約で199.99ドル。残念ながらGoogle Walletには対応していない。それどころかNFC機能自体搭載していないようだ。

AT&Tのスマホは将来的にNFCを搭載するとしても、Google Wallet対応にはならないという。というのは、AT&T、Verizon、T-Mobileが組んで作ったISISというモバイル決済のプラットフォームが別があり、これはGoogle Walletと競合しているため、AT&TがNFC搭載スマホを出すとするればISIS対応になるのだという。SprintはISISのメンバーではないので、Google Walletの第1号端末はSprintのGoogle端末だというのは自然な成り行きだ。

Google Walletが使えないとなると、これを選択する優先度は下げざるを得ない。

さらに頭を冷やしている間に、iPhoneの新機種が発表になった。10月4日、AppleはiPhone 4Sを発表した。巷の噂ではiPhone 4より少し大きくて薄くて軽いiPhone 5が出るはずだった。4Gサービスに対応するかもしれず、NFC機能も搭載されるかも



しれなかった。そのケースが既にショップには用意されていたとの情報もあったので、iPhone 5の登場はほぼ間違いないと思われた。それが、ふたを開けてみるとiPhone 4と同じ筐体の4Sだったので、大方のファンにとっては期待外れの結果となった。ただ、外見はiPhone 4と同じでも中身が全然違うらしい。

新しいiPhone 4Sは、デュアルコアA5チップ、1080pのHD映像を撮影できる手ぶれ補正機能まで付いた8メガピクセル・f/2.4のカメラ、音声AIなど、あっと驚く機能が満載だ。価格は16GBが199.99ドル、32GBが299.99ドル、64GBが399.99ドル。これに伴い、既存のiPhoneは値下げとなり、iPhone 4 (8GB) が99.99ドル、iPhone 3GS (8GB) は無料となる。ただしいずれも2年契約が前提だ。

iPhone 4Sの性能や機能は魅力的だが、残念ながらNFC機能が付いていないので、今回は見合わせることにする。

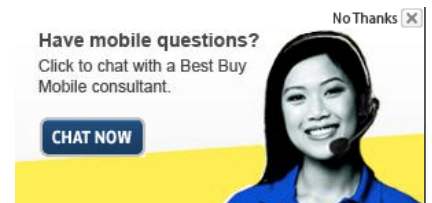
## 9 結局、量販店のオンラインで購入

今まで収集した情報を総括すると、Best Buyの店頭でもう少しで買うところだったSprintのNexus S 4Gが一番魅力的だ。ただし、モバイルWi-Fiホットスポット機能を使用する追加料金が問題だ。日本から来たばかりと聞いて、30ドルを45ドルに値上げした女性店員の態度にも腹が立つ。また同じお店に行けば同じ店員がいるかもしれない。別な場所のBest Buyに行く手もあるが、少し遠くて面倒だ。

そのとき、Best Buyのオンライン販売サイトがあることを思い出した。Best Buyのホームページ<sup>(脚注)</sup>に行ってみる。SprintのNexus S 4Gを探す。定価699.99ドルの本体が何と無料になっている。

モバイルWi-Fiホットスポット機能がいくらになるか気にしつつ、詳細画面に進む。詳細画面の中でも確かに2年契約の場合の本体価格は0ドルになっている。

何か質問があればオペレータとチャットができるというメッセージが出るが、「No Thanks」のボタンを押して、先へ進む。



(Sprint ホームページ)

「ADD TO PACKAGE」というボタンを押すと、機種選択が完了し、郵便番号を入力して料金プランを選ぶ画面になる。料金プランはファミリープランと個人プランが3種類ずつ、計6種類が表示されている。家族の分も合わせて2回線購入することにし、ファミリープランを選ぶ。(図表18)

<sup>(脚注)</sup> [www.bestbuy.com/](http://www.bestbuy.com/)

【図表18】 Sprintのファミリープラン（最初の2回線分の合計）

月間分数上限	月額基本料	上限超過後
1500分	\$129.99	1分45セント
3000分	\$169.99	1分40セント
無制限	\$189.98	.

（出典）Best Buyのホームページの情報に基づき、筆者作成

音声通話はSkypeなどの無料サービスを多用する予定なので、最低限の1500分のプランを選び、機種を追加する画面に移動。もう1台同じ機種を選ぶ。次にオプションサービスを選ぶ画面に移る。ここで、1台ずつについてオプションを選ぶことができる。1台目にモバイルWi-Fiホットスポット機能を追加する。3G以上のサービスに強制的に追加となるプレミアムデータオプション（10ドル）も選ぶ必要がある。

「ADD PACKAGE TO CART」というボタンを押すとカートの内容が表示される。モバイルWi-Fiホットスポット機能は確かに29.99ドルになっている。日本から来たばかりかどうかは関係なさそうだ。送料計算のために郵便番号を再度入力する。送料は無料だ。ただし、契約一時金（アクティベーションフィー）が1台あたり36ドルかかっている。さらに税金（セールスタックス）が本体2台分で110.33ドルかかっている。サンフランシスコのセールスタックスは8.5%だから、逆算すると端末本体の定価は1台649ドルで計算されている。せっかく端末を無料で買っても、税金は値引き前の定価に対してかかることがわかった。これも特に今まで聞いていなかったが、そういう制度であれば仕方がない。

「CHECKOUT」ボタンを押して、支払い情報を入力する。ここで、氏名、住所、生年月日の他、ソーシャルセキュリティ番号、免許証番号、クレジットカード番号など、かなり詳細な個人情報を入力する。これがフィッシングサイトだったら大変だ。サイトのセキュリティが大丈夫なのか気にしつつ、最後まで入力する。クレジットヒストリーがない場合やスコアが悪い場合は、ここで料金の修正やエラーメッセージが出るのかもしれないが、それを確認するすべもなく、スムーズに購入が完了した。5日から10日後に端末が届くという。今度は本当に端末が届くのかどうか、不安は絶えない。

## 10 まとめ

10月6日にオンラインで注文を完了したNexus S 4Gが、5日から10日後という約束どおり、7日後の10月13日に無事届いた。奇しくもiPhone 4Sの販売開始の前日だ。iPhone 4SからはSprintも販売に参戦し、AT&T、Verizon、Sprintの3社による新たな競争が始まった。ユーザのスマホ選びは今後ますます難しくなるに違いない。

ここで今回のスマホ選びのポイントをまとめてみたい。

### キャリア選択 ・ 料金重視でSprintを選択

3社はそれぞれ特長を明確にしている。Verizonは「カバレッジの広さと信頼性」、AT&Tは「速さ」、Sprintは「データ完全定額制」。月々の料金は高い順に、Verizon、AT&T、Sprintとなるので、ユーザはそれぞれのニーズや価値観に応じて、品質重視ならVerizon、速度重視ならAT&T、料金重視ならSprintといったように、比較的明確にキャリア選択を行うことができる。筆者はもちろん料金重視だ。

### 機種選択 ・ Samsung/GoogleのNexus S 4Gを選択

現時点でGoogle Wallet が使える唯一の機種であることが決定的要因となった。この機種は4G対応で、Wi-Fiホットスポット機能が付いており、さらに本体価格は無料で購入できたので満足している。

### 購入方法 ・ 量販店のオンラインショップで購入

ショップで買うか、オンラインで買うかについては、月々の基本料はまったく同じで、オンラインでも特に送料や手数料等はかからなかったため、どちらでも大きな違いはない。ただし、端末の本体価格については、それぞれが別々にキャンペーンをやっていたりするので、ほしい機種のキャンペーンをやっていないか、どこで買うのが一番安いかを地道に調べることが得策だ。

さらに、ショップとオンラインのそれぞれについて、キャリアの直営か、量販店かの選択肢があるが、これも月々の基本料等の条件は変わらないが端末の本体価格が違う場合があるので、それぞれのキャンペーンや端末の販売価格に目を光らせて、その時点で一番有利なところを選ぶことが得策だ。それと、なぜか本体の定価はキャリア直営の方が安いという面白い事実もわかった。

また、ショップの場合は、スタッフの対応も重要な決め手となることを実感した。今回は量販店Best Buyの店舗でもう少しで購入するところだったが、スタッフの感じの悪さにより購入を断念。Best Buyで買いたい店舗には行きたくないという状況となり、最終的にBest Buyのオンラインショップで購入することになったが、スタッフの対応次第では店舗で購入していた可能性も十分にあった。

### 料金プラン ・ 1500分のファミリープランを選択

音声通話はSkypeなどを利用できることから通話分数が最低限のものを選択。1か月あたり2回線分で1500分までの通話が含まれるプランの月額基本料は129.99ドル。それを超過すると1分45セントがかかる。基本料には無制限のデータとテキストが含まれているのがSprintの特徴だ。それに加えて、スマホの利用には1回線あたり月額10ドルのデータ付加料が加算される。さらにスマホに付属のWi-Fiホットスポット機能を使うことにし、月額29.99ドルが追加されて、2回線分の月額基本料は合計で179.98ドルとなった。

### その他・付加料金に注意

「Hidden Charge」というほどではないが、購入直前になって以下の費用が追加的にかかることが判明した。

#### 本体定価にかかる税金

サンフランシスコの場合、セールスタックス(売上税)として8.5%が本体定価に対してかかる。本体が値引きされても、税金は値引き前の定価に対してかかることに注意。

#### アクティベーションフィー

1回線につき36ドルが回線開設時の一時金としてかかる。ファミリープランで契約しても、それぞれの回線に対してかかる。

#### 早期解約料

2年契約を途中で解約した場合は、1回線につき350ドルの解約料がかかる。

さらに月々の費用としては、ユニバーサルサービス料、規制料、管理料等の諸費用がかかるものと思われるが、これがどの位になるのか、これは請求書が届いてからのお楽しみということにする。

最後に全体を振り返って、はたと気がついた。税金は本体定価に対してかかる。本体定価の値段はBest Buyよりもキャリア直営の方が安かった。ということは、キャリア直営で購入すれば、税金がもう少し安くなったのではないか。

少し後悔が残るスマホ選びとなった。

#### 【執筆者プロフィール】

氏名：高橋 陽一（たかはし よういち）

経歴：KDD（現KDDI）にて海外通信事情の調査、サービス企画、海外の通信事業者との交渉、法人営業等を担当した後、1995年よりカリフォルニア支社（ロサンゼルス、サンフランシスコ）勤務。1999年より外資系通信事業者の日本オフィスに勤務。2006年より日本のIT企業にて米国現地法人の設立、運営等を担当。2010年4月よりKDDI総研にて特別研究員として、海外の通信市場・政策動向の調査分析に従事。2011年9月よりサンフランシスコ在住。